

第468回鉄鋼流通問題懇談会

2025年1月21日（火）14：30

茅場町「鉄鋼会館4階」日本鉄鋼連盟・第一会議室

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京（鉄流懇・提出資料参照）
 - 東京、大阪、東北、新潟、北陸地区概況報告
 - (2) 総括：井上全鉄連会長
3. 意見交換
4. テーマ「職場環境の改善」について
 - オフィス・現場、どちらでも・両方でもよい
 - メーカー、商社、全鉄連（井上会長、事務局）発言ごとに質疑応答
 - 発表時間は3～4分程度、伊藤忠丸紅鉄鋼㈱10分程度予定とのこと
5. 総括：赤木鉄流懇会長
6. 次回会議予定
 - 2025年4月18日（金）14：30～
 - 於：茅場町「鉄鋼会館4階」日本鉄鋼連盟・第一会議室
 - 次回テーマ：「安全への取り組み」について

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	メタルワン	住友商事グローバルメタルズ	阪和興業	兼松トレーディング
1. 需給動向	<p>人手不足が堅調であり案件の後倒しが多く発生している。また働き方改革によって長時間労働は是正がなされていることもあり工期の長期化も始まっている。この様な状況下で大手ゼネコンは受注体制の見直しも検討しており、今後選別受注を行っていくことも検討されている。それに伴って建築案件では中小ゼネコンが過去受注していなかったものを受注していく可能性はあるが、人手不足が深刻な状況下でどの様な状況になっていくかは不透明。</p> <p>価格動向は需要環境が芳しくない中で電炉メーカーの値下げも影響して、5円/kg程の下落が見られる。25年度も引き続き市況は弱含み状況が継続する見込み。</p>	<p>2024年10月末薄板三品在庫（補償値）は、前月比3.2%減の400万6千トンとなり、3ヶ月ぶりに減少した。在庫内訳はメーカー在庫が前月比5万3千トン減の167万7千トン、問屋在庫が同4万8千トン減の83万トン、コイルセンター在庫が同3万6千トン減の149万9千トンとなった。在庫率は2.96ヶ月となり前月比0.09ポイント増加した。自動車メーカーの減産などの一時的な需要（活動）減に対し、鉄鋼メーカー側の生産調整が継続されていることに加え、9月の荒天影響が解消されたことで出荷が促進された影響も大きいと考えられる。需要について自動車生産台数は前年同月比でマイナスが続いており、また建築関係の指標についても低い水準が続いており、需要回復の兆しは見えない。市況については安値の電炉材や輸入材が入着してきている中、じり安状況が継続しており、在庫消化目的の安売りが散見される。</p>	<p>2024年10月末の全国厚中板在庫は375千トンで前年平均比2,610トン増。12月は出荷量が入荷量を上回っており、3ヶ月連続の在庫減となった。在庫率は全国ベースでは前月比17ポイント下がりの265%となった。7月から在庫率減少傾向にあり、適正在庫率と言われる200%に近づいている。</p> <p>需要に関して、分野・地域を問わず極めて厳しい状況が続いており、回復の兆しが見えない状況である。特に、建築では引き続き中小案件が足元鈍く、首都圏の大型再開案件待ちの状況が続いている。産業機械関連車は中国需要減退に伴い、荷動き悪い状況が続く。全体的に荷動きが悪いこともあり、供給面ではタイト感を感じられない。</p>	<p>棒鋼 足元、需要少ない中、流通間の受注競争は激しく、市況は、じり安傾向となっており、安値も散見される。人材不足などによる着工計画の見直しに加えてマシンの価格や住宅ローン金利の上昇、用地取得の難化などから、先行きの需要も低位な需要が予想される。</p> <p>形鋼 足元、需要少なく、引き合い低調。市況は、弱基調で推移している。市中在庫は、主力の流通が、仕入れを抑えている為、低レベルにあり、歯抜け状態が散見される。首都圏を中心に再開案件や物流施設など先行きの物件は見えているものの、人手不足などの影響が大きく、需要は伸びない。しかしながら、人手不足の懸念に伴って、工期短縮という面でRC造と比較して鉄骨造に変わることに伴って、需要増に期待したい。</p>
2. 需要産業動向	<p>【建築土木】24年12月の穿設住宅着工戸数は、前年同月比1.8%減の6万5,037戸となり、対前年比で7ヶ月連続の減少となった。内訳は持ち家が1万9,768戸で同11.1%増で2ヶ月連続の増加、貸家が2万6,717戸で同5.5%減で2ヶ月連続の減少、分譲住宅は1万8,146戸で同7.3%減で7ヶ月連続の減少。分譲住宅のうち、マンションが7,895戸で同2.9%増と4ヶ月ぶりの増、一戸建住宅は1万124戸で同14.5%の減となり、25ヶ月連続の減少となった。</p> <p>【自動車】24年12月の国内新車販売台数は前年同月比9%減の32万9,786台となり、2ヶ月連続のマイナス。特にダイハツは型式指定の認証試験不正問題で開発が止まり、2年以上新型車の販売がなく、規制対応も遅れており、国内向け11車種の内、8車種の生産を10月末から停止した。</p> <p>【建設機】24年11月の建設規格出荷金額は内需は10.3%減の908億円、外需は17.3%減の1,829億円となった。内需は4ヶ月連続、外需は10ヶ月連続の減少。</p> <p>【造船】24年11月末の手持ち工事量は630隻、2,967万総トンで前月比で34万総トンの減少。約3.3年分の工事量となる。足下では資機材価格の高騰、人件費の上昇、海運市況の下落基調などから新規商談は様子見状態。船舶の燃料のメイントレンドがどうなるかも現状不透明な状況であり、新規商談に慎重姿勢が見られる。</p>	<p>2024年11月の自動車国内販売は、36万2千台（前年同月比6.1%減）と2ヶ月連続でのマイナス。乗用車が30万4千台（同5.4%減）、トラックが5万7千台（同10.1%減）となった。11月の民生用電気機器の国内出荷金額は、2,052億円（同101.4%）と2ヶ月連続のプラスとなった。ルームエアコンは前年比2ヶ月連続のプラス、電気冷蔵庫は同2ヶ月ぶりのマイナス、洗濯機は同4ヶ月ぶりのプラスとなった。省エネ製品や高機能高付加価値製品へのシフトが進んでいることに加え、主要品目が前年比プラスになったことから、民生用電機機器全体では前年を上回った。11月の新設住宅着工戸数は6万5千戸（同1.8%減）と7ヶ月連続で減少。持家は2ヶ月連続の増加、貸家は2ヶ月連続の減少、分譲住宅は7ヶ月連続で減少。季節調整済年率換算値では前月比0.5%減。</p>	<p>造船業界は引き続き好調である。手持ちの工事量について国内造船メーカーは3~4年程度の工事量を確保している状況。</p> <p>世界的な経済活動の回復により海上荷動量は急増しており、バルク、コンテナ船の需要が増加している。2024年度の4月~9月輸出船契約実績（受注量）は前年同期比47.8%増の671万総トンだった。</p> <p>建築業界では、非住宅着工床面積は変わらず減少傾向である。前期に続いて2024年下期の需要も400万トン前後の低移が続くと想定される。当面厳しい状況が続く見通し。</p> <p>建設機械業界の10月の出荷金額は国内外合計3009億円であった。内需は3ヶ月連続の減少、外需は9ヶ月連続の減少となり、不調が続いている状況。外需に関しては油圧ショベル、ミニショベル等が増加に転じ、緩やかに回復すると予測している。</p> <p>産業機械業界の11月の受注金額は内需が343億円、外需が850億円であり、前月対比5%、2%上がった数値である。</p> <p>機種別では、ボイラ・原動機、プラスチック加工機械、ポンプ、運搬機械、変速機が好調。</p>	<p>11月の全建築物の着工床面積は844万㎡で前年同月比0.9%の減少で13ヶ月連続の減少。公共の建築主は、37万㎡で前年同月比38.4%の増、3ヶ月ぶりの増加。民間の建築主は、806万㎡で前年同月比2.2%減、13ヶ月連続の減少。</p> <p>新設住宅着工は、持ち家が増加したが、貸家、分譲住宅が減少した為、全体で前年同月比1.8%の減少となった。</p> <p>新設住宅着工戸数は、65,037戸で前年同月比1.8%減、7ヶ月連続の減少。新設着工床面積は、5,105千㎡で前年同月比0.3%減、7ヶ月連続の減少。</p> <p>構造別では、S造が283万2千㎡で前月比4.2%減（前年同月比2.1%増）、RC造が148万8千㎡で13.5%減（前年同月比16.0%減）、SRC造は、20万1千㎡で41.2%減（前年同月比154.2%増）。</p>
3. 輸出入動向	<p>2024年11月度鋼管輸出量 継目無鋼管：2万1,357トン 溶銀接鋼管：1万7,264トン</p> <p>2024年11月度鋼管輸入量 継目無鋼管：1,149トン 溶銀接鋼管：1万1,819トン</p>	<p>11月の薄板三品輸入量は30万1千トン（前年同月比（前年同月比2.5%減）であった。主要品種別では、熱延が12万トン（同6.4%減）、冷延が7万3千トン（同2.7%減）、亜鉛めっきが10万8千トン（同2.4%増）となった。11月末の輸入岸壁在庫は16万1千トンとなり、前月比で7千トン減少した。</p> <p>3ヶ月連続で30万トンを超える非常に高い水準の輸入量となっている。中国材の輸出増加については多少の増減はあるものの大きく減少する見込みにはなく、関東の港湾能力問題から滞船状況は悪化する見込み。</p>	<p>2024年10月の厚板輸入量は6.6万mt。前年同月比で220%の増加と2024年度で最も多い月となった。韓国からの輸入量は4.3万mt、中国からの輸入量は2.1万mt、台湾からの輸入量は0.2万mtである。</p> <p>2024年10月の厚板輸出量は24.3万mt。前月比1.6万mt減少、前年同月比4.7万mt減少。減少の要因として韓国向け輸出の縮小がある。2023年度の平均が7.3万mtであるのに対して、2024年10月は4.9万mtと2.5万mt低い水準であり、長期的に減少傾向。その一方で、インドネシア向けに関しては比較的好調である。同国10月は実績3.9万mtで、前月比で1.1万mt増加、前年同月比で1.6万mt増加となっている。</p>	<p>輸出 異形棒鋼の11月の輸出量は、17,935ト円で、前月比34.4%減少（前年同月比34.2%減）した。平均価格は、7万3038円で前月比3102円高（前年同月比3200円安）だった。H形鋼の11月の輸出量は、29,771ト円で、前月比42.2%の増。</p> <p>輸入 H形鋼の11月の輸入量は、13,575ト円で、前月比29.4%の増と2ヶ月連続で1万トンを超えとなった。</p>
4. 海外市場動向	<p>2024年12月平均WTIは69.79ドル/バレルとなり、前月比略横這い。先行きは60ドル台半ばへ下落する見通し。中国の原油需要伸び悩み、OPECプラス以外の国が供給を増加させることが要因。25年後半以降はトランプ政権の政策効果で米国需要が増加し、原油価格は緩やかに上昇する見通し。</p>	<p>世界鉄鋼協会がまとめた世界71ヶ国の11月の粗鋼生産量は前年同月比0.8%増の1億4,680万トンと2ヶ月連続で前年実績を上回った。中国、インド、ドイツでの増加により他国はマイナスであったが、全体ではプラスとなった。1-11月累計では前年同月比1.4%減となった。中国の暦年での粗鋼生産は5年連続で10億トンを超えて濃厚であり、回復の見られない内需に対して過剰生産の状況が継続。結果として過去最高水準の輸出量となる見通しで、アジア鋼材需給の緩和要因。</p>	<p>中国市況においては、党中央政治局会議で政府が積極的な金融政策の実施表明により、一時先物価格が上昇。しかし、その後に行われた中央経済工作会議で発表された政策内容に具体性・実行性に不安が残ることから下落。10月の粗鋼生産量は8188万mtと9月下旬に政府景気刺激策による期待から4か月振りの増加。しかし建築や不動産を中心に国内内需は引き続き低迷、市中在庫も高位にあり市況軟化が続く。中国の輸出シフトの局面は継続する見込みで、それに伴い各国の市況も影響されて低調な状況は変わらないであろうと予測。韓国の造船分野では、2024年1-11月の新規受注量は前年同期比約13%増加しているものの、溶接工不足による受注残が多く、厚板消費量は大きくは増えない状況。</p>	<p>中国の年明け鋼材市況は低調なスタートとなった。昨年未まで中国は景気対策を公表しているが、不発に終わっている。特に建設分野の鋼材の荷動きは停滞しており、春節明けに調子を取り戻す要素も無く、今後も精彩を欠いた展開が予想される。1月初旬の主要品種市中在庫は、増加傾向にあり、鉄筋は大幅に増加している。12月のミルの決算対策が影響している。</p>

鉄鋼流通問題懇談会（2025年1月）

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>（国内）・12月の日銀短観では、企業の景況感を表す業況判断指数（DI）の大企業・製造業の指数が、前回（9月）調査比+1の+14と、ほぼ横ばいの形（前回先行き比では±0）になった。先行きは+13の足元比▲1ではほぼ横ばいの方向となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門では、11月の小売業販売額が前年同月比+2.8%と33ヵ月連続の上昇。物価上昇などの影響により、上昇が継続。 ・製造部門では、10月四輪車生産が前年同月比▲0.2%と3ヵ月連続の減。10月の機械受注（民需）は前月比+2.1%と4ヵ月ぶりの増。 ・建築部門では、11月の全建築物建築着工床面積が844万㎡（前年同月比▲0.9%）となり、減少傾向が継続。 <p>（海外） 米国：堅調な個人消費もあり、主要先進国内では高い成長率を維持する見込み。新政権の政策動向とその影響が最大の懸念要素。 欧州：露宇戦争長期化、域内最大経済国ドイツの低迷等により、ごく緩やかな経済成長に留まる見通し。政治不安定化もリスク要素。 中国：各種経済対策により製造業等で一部持ち直しの動きも見られるが、不動産部門の不振長期化が成長を下押し。景気を下支えする輸出も米国新政権誕生で不透明感拡大。各国の対中通商施策の動向・影響を引き続き要注視。</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <p>（生産）・11月の粗鋼生産（速報）は689万tと前年同月比で9ヵ月連続の減少。 （出荷）・11月の普通鋼国内向け出荷は292万トンと前年同月比で7ヵ月連続の減。輸出向け出荷は185万トンと2ヵ月振りの増。 （在庫）・11月末の普通鋼鋼材国内向け在庫（速報）は494万トンと前月末比で2ヵ月連続の減。 ・11月末の薄板3品在庫は392万トン（前年同月比+9万トン）で9ヵ月連続の増。 ・11月末の厚板シャワー在庫は36万トン（前年同月比+0万トン）で6ヵ月ぶりの減。</p>
2. 需要産業動向	<p>〔建築〕・11月の新設住宅着工戸数は6.5万戸（前年同月比▲1.8%）で7ヵ月連続の減。持家は増、貸家・分譲は減。 ・11月の非住宅着工床面積は282万㎡（前年同月比▲4.7%）で5ヵ月連続の減。使途別では、倉庫が増、事務所・店舗・工場は減。</p> <p>〔自動車〕・11月の国内販売（輸入車除く）は36.2万台（前年同月比▲6.1%）で2ヵ月連続の減。 ・10月の完成車輸出は39.0万台（前年同月比▲3.5%）で6ヵ月連続の減。 ・10月の四輪車生産は81.7万台（前年同月比▲0.2%）で3ヵ月連続の減。</p> <p>〔造船〕・11月の新造船受注量は23.6万GT（前年同月比▲74.4%）。手持工事量は2,967万GT（前月末比▲1.1%）で2ヵ月ぶりの減。</p>
3. 輸出入動向	<p>〔輸出〕・11月の全鉄鋼輸出は249万トン（前年同月比▲3.6%）で4ヵ月連続の減。向先別では、ASEAN向け増、韓・中向け減。 〔輸入〕・10月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は49万トン（前年同月比+0.7%）で2ヵ月連続の増。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の世界粗鋼生産（推計含む）は1億4,680万トン（前年同月比+0.8%）で2ヵ月連続の増。 ・12月の中国粗鋼生産（速報）は7,597万トン（前年同月比+12.6%）。24年計は10億509万トンを5年連続の10億トンを超え。 ・12月の中国鋼材輸出（速報）は973万トン（前年同月比+25.9%）。24年計は1億1,106万トンを過去2番目の高水準。 ・中国市中在庫は、1月10日時点で780万トン（前年同期比▲18.7%）。条鋼類で大幅減も、鋼板類は高止まり。